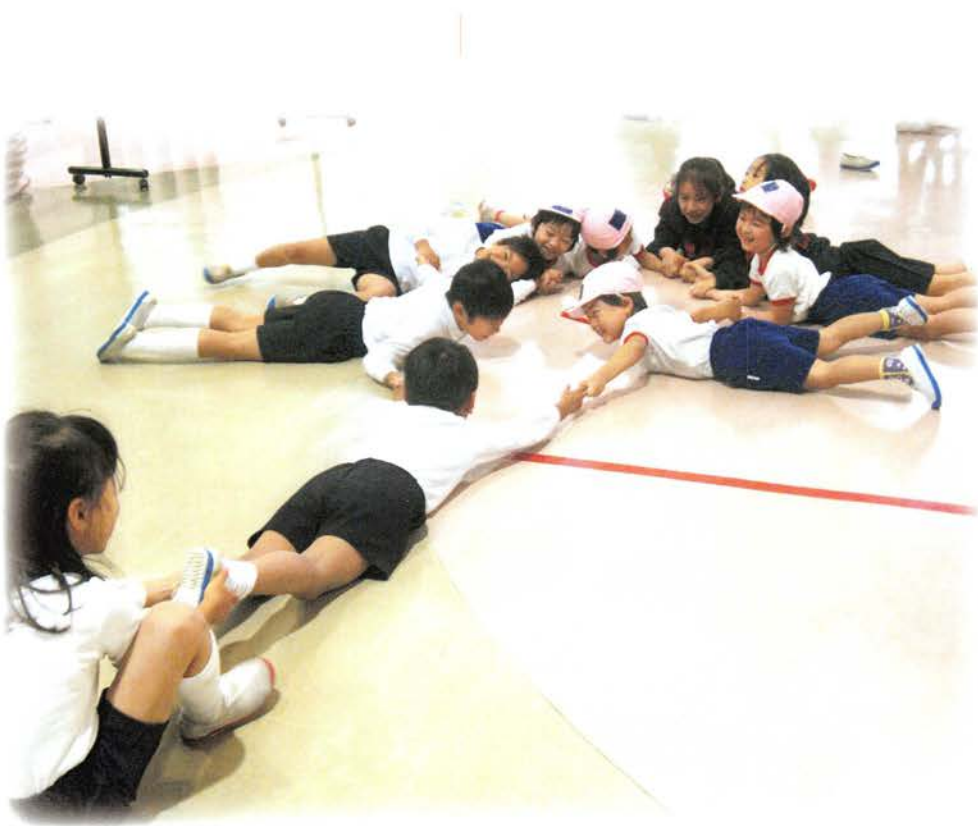


幼児期の教育における学びを探る

～石川県内の保幼小連携の実態と課題
(アンケート調査の結果から)～



金沢大学 人間社会学域
学校教育学類 附属幼稚園

2015

まえがき

社会の変化と共に子どもの育ちも変わってきます。それに教育も応じていかねばならないことは言うまでもありません。幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、幼児教育は「人とかかわる力や思考力、感性や表現する力をはぐくみ、人として社会とかかわり、人として生きてゆくための基礎を培う」ものであり、さらに「その後の学校教育全体の生活や基盤を培う」ものでもあります。

本園は幼小連携の研究に取り組んで参りましたが、昨年度は石川県内の幼稚園、こども園、保育所、小学校に「幼小連携」についてのアンケートにご協力をお願いし、2,386名の教職員の方々に回答して頂きました。内容につきましては本文の研究をご一読いただくことといたしまして、まずはお忙しい中、アンケートにご協力してくださいました現場の教職員の方々に御礼を申し上げます。

幼児教育は言うまでもなく総合的な教育であり、園生活の中での「遊び」による人間形成に重点が置かれ、教師による環境構成と援助により幼児は主体的に学び成長していきます。その教育におきましては同時に、「小学校以降の子どもの発達を見通した上で、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通してしっかり育てること」が求められています。幼稚園から小学校へ入学していく子ども達には幼稚園での「遊び」を通して自主的な学習の芽が育てられています。これを小学校の教育へと繋げる「幼小接続」は、小学校以降の教育の基礎を培うだけではなく常に学び続けるという「生涯教育」の基礎ともなることでしょう。

今年度の研究紀要は研究テーマを『幼児期の教育における学びを探る』とし、アンケートの結果より見えてくる石川県の保幼小連携の実態と課題について分析と考察をいたしました。この研究が今後の幼小連携の取り組みの一助となりましたら幸いです。それと共に、本園におきまして6月と11月の2回にわたって保育を公開いたします。これまでの研究の成果、私たちの取り組みについての報告等を多様な観点からご覧いただければ幸いです。どうぞ忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただけますようお願いいたします。

最後に、熱心なご指導をいただきました諸先生方をはじめ、ご多用の中ご来会いただきました皆様に心より御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成27年6月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 山下 浩